

青山

発行/梅窓院 編集/青山文化村
発行日/平成16年3月1日
発行人/中島 真成
住所/〒107-0062東京都港区南青山2-26-38
電話/03-3404-8447
FAX/03-3404-8107
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp

題字/浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆猊下

観音堂の内装が整備されました。以前より使いやすくなり、好評を得ています。これから、葬儀や仏教行事などで利用していく予定です。



新しい観音堂と 観世音菩薩像

奉拝 平成十六年 正月九日
長青山 梅窓院 中島真成

住職挨拶
梅窓院第二十五世
中島真成

お寺参り

平成十六年もはや三月、一年ごとに月日が経つのが早くなっているように思えますが、そういうものなのでしょう。

さて、今年は新しい梅窓院になって迎える最初の年末年始でした。そんなこともあり、お正月は元旦から受付で参詣の皆様には挨拶をさせていただきました。

本堂の再建とともに墓地の整備をしたこともあり、お参りの方はとても多く、年末年始で千軒近いお参りとなりました。天気にも恵まれましたし、恒例となった無料配布の絵馬も定着、そして新しい梅窓院参拝ということでしょう、例年の三倍の方が足を運んでくれました。

五十代、六十代のご夫婦が息子さん娘さん夫婦、そしてお孫さんと一緒、というご家族でのお参りが多かったように見えました。ご先祖さまへのお参りが目的のご家族、あるいは初詣や挨拶回りなどの前後に立ち寄られたご家族とさまざまでしょうが、ご先祖さまへのお参りが年末年始の恒例行事となってくれるのはありがたいことです。

扉も完成し竹の間に石灯笼も置かれた山門までの参道はお蔭様で好評です。今年はお墓へのアプローチを整備する予定です。

友禅学院の新年会にて挨拶をする中島住職。



今年の正月三日、朝日新聞に「三日目」という共通テーマで何人かの方がエッセイを綴っていた。その中に作家、角田光代さんの「予定日ならジミー・ペイジ」があった。

おそらく初産なのであろうが、出産予定日から、その二日後に陣痛が起るまでの心の動きを記したこのエッセイ、わが子の誕生がどんな有名人と同じ日になるか、その人の才能になぞらえて我が子への希望を託そうというのである。

第四回 (四回連載)

死者からの声援
(共生する仏教)

長野市十念寺 副住職

袖山榮輝 上人

という。「才能豊かな日」と角田さんの期待は高まったものの、その予定日に陣痛は来なかった。

翌二日目は伴淳三郎と嶋村抱月の誕生日。「渋めだがまあいいか」と期待したが、陣痛は来ず。三日目、じつはこの日だけは「生まれてほしくない」と思っていた。というのも、その日が「飲んだくれで、だらしがなくて、さっさと死んでしまった」、「大嫌いな父親の生まれた日」だったから

何でも、有名人の誕生日をまとめた本があるそうだが、予定日と同じ日に誕生したのがジミー・ペイジ。彼は七〇代を代表するイギリスのロックバンド「レッド・ツェッペリン」のリーダーでギタリスト。その唸るようなエレキギターの響きは、今も昔もロックを志す人々にとって憧れを越えた神業として崇められている。

ちなみに『第二の性』の著者ボーヴォワールも同じ日だ

なのだ。

しかし「よりによって」その日に陣痛は来た。はじめは「きつとこの子もろくでもない大人になる」と憂鬱に思ったが、産院に向かうタクシーの中で、陣痛はすぐにも生まれそうな勢いとなった。切羽詰まっていた角田さんと運転手さん。彼女は

「父と同じ飲んだくれでもいい。うるせえババアと言っても許す。だからタクシーの中で生まれるのだけはやめてく

れ」と祈るしかなかった。

そして、エッセイはクライマックスに。大嫌いだっただけの父への思いが不意に、しかも神秘的に覆るのである。「病院の自動ドアをくぐる。その時、背後から大きな声が響いた。おめでとう、がんばんな！私は驚いてふりむく。だつてそれは、父の声だったから。まさか、父のはずがない、遠ざかる運転手さんの後ろ姿がある。立ち止まり、ふりむいて、彼は笑つて手をふる。父とそっくりの笑顔で」

このエッセイを取り上げたのは、じつは仏教とは何かを考えてみたかったからである。仏教の目的は「覚りを開くこと」にある。煩惱を断ち切ること、諸仏に帰依することは、極論すれば、そのための手段に過ぎない。

では、覚りとは何か。おそらくは生者も死者も、そして未来の衆生も、時空を越えて心を通い合やすことのできる「共生」の世界のことである。お釈迦さまはそれを説き示そうとしたと、私はそう思っている。

このエッセイには生者が死者からの声援を受け取る感性がある。生者は死者のことを思い、死者は生者を思う。それを仏が伝えてくれる。仏教は、それでいい。

(浄土宗総合研究所研究員)

1月、2月の行事
祖師堂こけら落とし公演

HIRAI TAKEICHIRO
平井丈一郎
チェロコンサート

2月8日 祖師堂



約370名の来場があり、大盛況となりました。



平井丈一郎氏の美しいチェロの調べに引き込まれます。

公演終了後、ご家族で記念撮影。



ピアノ・平井元喜氏。



春彼岸会法要

三月二十日(土)

午後一時〜彼岸寄席

午後二時〜彼岸会法要

二階 本堂にて

春彼岸寄席

毎年恒例となっております
彼岸寄席。今回は知的な薫りが漂う語り口で、梅窓院でも人気の高い入船亭扇好師匠にご登場頂きます。迫力ある生の落語を間近で聞くチャンスです。皆さまお誘い合わせの上、お越し下さい。

落語

入船亭扇好師匠
入船亭遊一さん

プロフィール

入船亭扇好師匠

S三八 長野県生まれ

S六〇 入船亭扇橋に入門

H一 二ツ目昇進 二代目扇好を襲名

H一〇 真打昇進

現在古典落語を中心に活動。根多数は一三〇席。滑稽噺、人情噺、怪談噺まで。趣味はスキー、日本舞踊、小唄から古道具集めまでと幅広い。



入船亭扇好師匠。



入船亭遊一さん。昨年11月に二ツ目に昇進。

春のお彼岸

彼岸塔婆お申し込み方法

同封の葉書にて三月十一日(木)必着でお申し込み下さい。お電話でも受け付けております。

塔婆回向料 一本七千円

お支払方法

振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付まで直接お持ち下さい。

◆お檀家様へのお願い◆

三月十七日から二十三日までの彼岸期間中、当院はお参りの方で大変混みます。ご来寺の際は、電車等の公共交通機関をご利用下さい。

春のお彼岸期間中、梅窓院一階観音堂にて「梅窓院本堂荘嚴佛具展」が開催されます。

今回はこの秋完成予定の本堂荘嚴の作成過程を、写真パネルにてご紹介する展示会となっています。

彫金など一部は、実物も展示する予定となっております。日本の誇る伝統工芸に直にふれる大変良い機会です。

また、会場には常時浄土宗の仏壇の飾り方を展示し、ご案内をさせていただきます。

開催中は皆さまから佛具のご質問も受け付けております。お気軽に足をお運び下さい。



梅窓院本堂
荘嚴佛具展
三月十七日(水)〜二十三日(火)
一階観音堂にて

開催

九時〜十七時

(ただし最終日は十二時まで)

梅窓院 本堂内陣 荘厳佛具

新しくなった本堂内陣に飾る荘厳(佛具)は、現在京佛具職人の手によって製作が進められております。最高級の素材を揃え、古来より受継がれた匠の技と情熱をもって作られる荘厳は、重厚な存在感を持ち、見るものを圧倒します。

春のお彼岸中、観音堂にて荘厳佛具展を開催致します。作成過程の佛具も一部公開を予定しておりますので、この機会にぜひ足をお運び下さい。

【荘厳のご説明】

須弥壇 (しゅみだん)
本堂内陣の正面に据えて、本尊を安置する「仏壇」で、須弥山をかたどっている。

宮殿 (くうでん)
阿弥陀様を安置する小宝殿。極楽の楼閣を模ったもの。

前机 (まえづくえ)
内陣中央に置き、五具足をのせる机。五具足とは「香炉」「花瓶 (一对)」「燭台 (一对)」のこと。



彫金の作業は土台作りから始まる。土台の原料にはマツヤニなど天然素材が使われる。この程よく柔らかな土台が美しい模様を生み出す。



彫金

佛具の装飾に欠かせない彫金。彫金は金属製品の表面に施す加飾技法の事をいいます。細かな細工が施された彫金を、漆が塗られしっとりとした質感に仕上がった木地の上に組み合わせると、大変重厚感ある荘厳が仕上がります。



彫金を留める釘の先にも、金箔がつけられている。

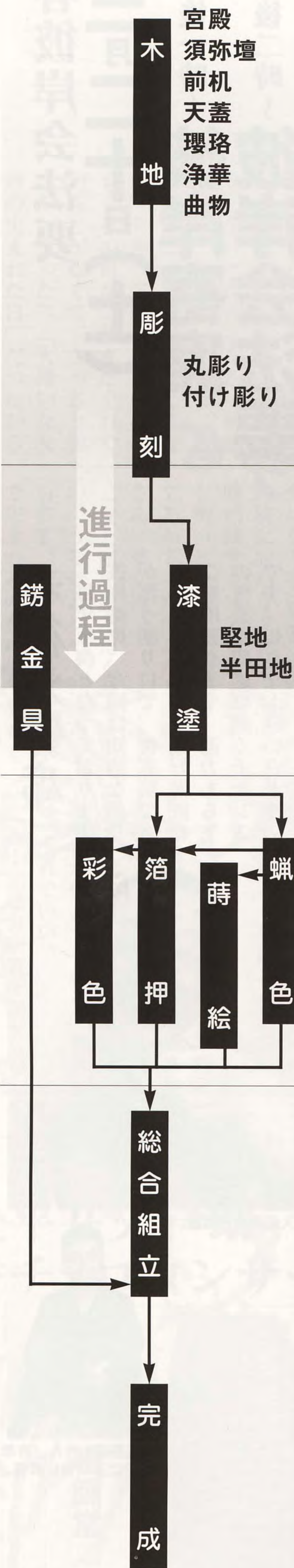


一粒一粒、均一に鑿を打ち込む作業はまさに職人芸。



梅窓院荘厳に用いられる彫金には、飛鳥時代より受継がれる「魚々子打」という伝統技法が用いられています。

現在この「魚々子打」は、プレス機械で製作するのがほとんどですが、新調する佛具は、文様(模様)の周りをつ一つ一つ鑿(たがね)を用いて手で打っています。何万もの細かい粒を整然と並べて打つ作業は、これぞ匠の技と言えるでしょう。



この二月で三十一回目をむかえた念仏と法話の会。第一回は今から十年前の一月十七日、以来毎回欠かさず出席されているのが さんだ。

毎回出席の理由を聞くと。「実は皆さんに合わせて木魚を叩くのも大変ですし、念仏を称えていても、良からぬ事や悩み事ばかりが浮かんで来るんですよ（笑）。

でも、称えている時は何かきれいな世界に居られる気が

しますし、何より参加することで希望がわいて来ます」

念仏との出会いは？

「実は心の悩みがたくさんある上に、それから救われたい気持ちが一倍強い気もします。そんな時、主人の母が亡くなつて、お寺のことを自分でやるようになり、念仏と出会ったのです」

さんは長野の出身だ。両親が亡くなった後、面倒を見てくれていた兄が戦死。そんな貧しい生活の中でご主人に出会った。

「主人の大学時代の先生が長野に別荘を持っていて、その別荘に主人が遊びに来ていたのです。当時の私は貧しい生活から抜け出たくて、抜け出したくて仕方なくて。

それには東京に行かなくちゃ、と、そんな時、東京から来た主人が現れたのですよ」

さんはそのご主人と結婚、二十八歳の時だった。そして憧れの東京に出てくる。

それまでの生活が一変した。ご主人は複雑な家庭環境に育つたものの、実父と養父からそれぞれ都内の不動産を相続して、さんにとっては明日のお米の心配がない夢に見た生活が始まった。

しかし、同時に新しい悩みが立ちはだかった。ご主人のアルコール依存症である。

ご主人は酒と肴は自分で準備する。朝昼晩と飲んでばかりだが、二合も飲めば適量で、大酒を飲むわけではない。また酔って暴力を振るうこともないし、悪癖もない。ただ、飲むこと以外は何かもしない。

「手を伸ばせば届くものでも主人は私に取らせません。まあ、お酒は主人にとって心のご飯だと割り切っていますし、暴力を振るわれることもありませんが。でも、主人を一人で置いておくことができないのです。病人でもないのに病人より手が掛かるのです」

三人いる娘さんの長女と同じ居している牧さんだが、娘さんにご主人の面倒を見てもらうわけにはいかない。

「主人の仕事は家賃の管理です。すから時間は自由で、一人でよくアメリカに行っていました。娘と一緒にいる時間もありませんでした。もし飛行機が落ちたら娘たちが困るって……（笑）。

娘たちが大きくなってからは二人で海外によく行きます。主人は旅行が好きですから、行く事になれば計画を自分で一所懸命立てています」

そんなご主人と上手く付き合うために、外出の予定がある時は事前に機嫌をとるための旅行に出掛ける。

「わたし、梅窓院の団体参拝にもよく参加させてもらって

いますが、泊まり掛けの時は、その参拝旅行の前に主人と海外旅行へ行きます」

出掛けるために海外へ旅行。こう聞いてしまうと、悩みといても恵まれた悩みと思わず言いたくなるが、人それぞれの事情には第三者には解からない辛さがある。

さて、梅窓院の行事に参加してから思うことが牧さんには二つある。一つは宗教を信じていることで、ものの善悪がわかってくる。そして、もう一つはお寺時間の感覚だ。

「ご住職さんは挨拶やお話の中でよく『誰でも連れてお寺に遊びにいらつしやい』と言われます。これは百年二百年先を見ている言葉だな、つてある時気づいたのです。

仏教の視点で特別ですね。そんなことをご住職から教わりました。ですからご住職のこと尊敬しています。あつ、これ書いておいて下さいね」

最後は素敵な笑顔だった。

平成十一年秋の団体参拝で奈良へ。鹿に餌をあげる さん。

念仏中、
色々なことが
浮かんできます。
でも、心は落着くのです、
南無阿弥陀仏で。

檀家

さん

江戸三十三観音 札所めぐり 最終回



浅草から目黒まで、ぐるり東京一周江戸観音札所巡りの旅。早いもので、最終回を迎えることとなりました。平成十三年秋から約二年半で、すべてお参りする事ができました。今回は番外も合わせ、最後の四ヶ寺のご紹介です。

第三二番

海照山普門院 品川寺
別格本山 水月観世音菩薩
本尊 聖観世音菩薩

品川寺は古くから観世音菩薩霊場として、東海三十三ヶ所の二一番にあたり「品川観音」と呼ばれ親しまれていました。江戸六地藏の第一番でもあり、境内には大きな銅造りの地藏菩薩が座しています。また、東海七福神「毘沙門天」の霊場にもなっていて、多くの人がお参りに訪れます。



平安時代（八〇八）、円仁によつて開かれた関東最古の不動霊場で、古くから浅草寺と並んで東京の庶民信仰の中心地として栄えてきました。昔から全てを巡拝出来なくとも「結願札所」をお参りすると全体を拝するご利益があると言ひ伝えられています。

第三三番

世田谷山観音寺
札所本尊 聖観世音菩薩

世田谷区指定保存樹林地にも選ばれている観音寺の境内は、桜や梅などの木々が溢れ、近隣の人々の憩いの場となっています。

世田谷観音と呼ばれて親しまれており、月例縁日である毎月十八日には午前十一時から読経・法話の会が開かれ、多くの人が訪れます。渋谷駅より東急バス野沢行き、目黒駅より三軒茶屋行きにて、いずれも世田谷観音下車。世田谷区下馬四・九・四 電話（三四一〇）八八一



第三四番

目黒不動尊別当 瀧泉寺
札所本尊 聖観世音菩薩



番外 龍吟山千躰荒神殿 海雲寺

札所本尊 十一面観世音菩薩

三一番品川寺の隣にある海雲寺の開基は古く、建長三年（一一五二）まで遡ります。ご本尊の十一面観世音菩薩は草創当時のもので、仏師春日の作と伝えられています。また

境内には、台所の神様として有名な千躰三宝荒神が奉られており、熱心な参詣者が絶えません。京急・青物横丁駅徒歩二分 都営・東急バス青物横丁下車 品川区南品川三・五・二二 電話（三四七二）〇四二八



東急目蒲線・不動前駅下車 徒歩十分／東急バス・五反田、渋谷線・不動尊境内下車 目黒区下目黒三・二二・二六 電話（三七二二）四九〇八



第一番 浅草寺	第二番 清水寺	第三番 大観音	第四番 回向院	第五番 大安楽寺	第六番 清水観音堂	第七番 心城院	第八番 清林寺	第九番 定泉寺	第十番 浄心寺	第十一番 圓乗寺	第十二番 傳通院	第十三番 護国寺	第十四番 金粟院	第十五番 放生寺	第十六番 安養寺	第十七番 寶福寺	第十八番 真成院	第十九番 東円寺	第二十番 天徳寺	第二十一番 増上寺	第二十二番 梅窓院	第二十三番 長谷寺	第二十四番 大円寺	第二十五番 海雲寺	第二十六番 魚籃寺	第二十七番 道往寺	第二十八番 金地院	第二十九番 東京別院	第三十番 一心寺	第三十一番 品川寺	第三十二番 観音寺	第三十三番 瀧泉寺
---------	---------	---------	---------	----------	-----------	---------	---------	---------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	----------	-----------	-----------	-----------

三十三観音巡りを終えて

約二年半をかけて、無事三十三観音巡りが終了しました。

実際まわると、どこのお寺でも参拝する人の姿は絶えず、お寺はお参りする、願うといった、心の拠り所として大切な場所であると思ひました。

お寺はきつかけがないと行き難いと思われがちですが、実は気軽に寄れて、話もできる所でした。ご住職と立ち話して盛り上がり、しまつたお寺もありました。朱印帳片手にお寺散策もよいものです。一度オススメ致します。（編）

※次号より新たな寺院紀行企画が始まります。読者の皆さまと共に、お寺を廻りレポートしていくもので、只今参加者を募集しています。ぜひお問合せ下さい。詳しくは最終面をご覧ください。梅窓院 青山文化村 〇三・三四〇四・八四四七





青山散歩道

サロンドテ ショコラショー

昨年十二月にオープン。白を基調としたシックでスタイリッシュな店内からは青山霊園の緑が臨め、ゆったりとくつろげる。

看板メニューでもあるショコラショーはフランス語でホットココアを意味し、本場と

ケーキの特別注文承ります。



TEL 03-5413-5400 FAX 03-5413-5770 港区南青山2-17-7 営業時間/ 午前10時~午後7時 火曜定休日 ホームページ http://www.chocolat-chaud.com



通りに面して 駐車場4台あり。



同様ココのある味わい。 ケーキ・焼き菓子はフランス帰りのパティシエが本場の味を生かしつつ、日本風にアレンジして作っており、常時それぞれ十種類ほど並ぶ。特に大切にしているのは食感とこと。驚きの新しい感覚を楽しめる、タルトフロマージュや塩チョコクッキーはぜひ試したい一品。 オープンテラスもあり、ほのぼのと過ごせる。お花見やお参りの際、立ち寄ってみるのはいかがでしょうか? 各種詰め合せは、1,000円より。ご法事のご進物等に予約可能。全国地方発送、一律500円(一部除く)。

青山俳壇

選者・『ウエップ俳句通信』編集長

大崎紀夫

冬の季語

◎特選

枯蓮や限りある身のことをふと

(評) 枯蓮の姿を眺めて、ふと自分の行末のことを思ったわけです。さり気ない言葉使いの中にこの世を生きる者の思いがよく詠まれた秀句です。

◎佳作

冬風や一本釣の鯛の反り 父母を囲んでそして初写真 晩学の句集を膝に日向ぼこ 寺毎に時の重みや初詣 笹浮きを間近にきけり水の苑

◎選者詠

深谷葱土ほろほると掘られけり

大崎紀夫

へんポイントアドバイス

俳句をつくったなら、二度三度、声に出して読み上げてみましょう。読み上げる事によって、調べが分かります。

食は命なり

第十四回

武鈴子

食養研究家

強い味方 キヤベツは 胃腸のベツは

近年、野菜の薬用効果がつぎつぎと明らかになり、改めて野菜に潜んでいるパワーが見直されています。なかでもキャベツに含まれているビタミンUは、胃潰瘍、十二指腸潰瘍に著しい効果があるとして注目されています。ビタミンUは、キャベツから発見されたので、別名をキャベジンと呼び、胃腸粘膜の新陳代謝を活発にする働きがあるため、胃潰瘍などで傷ついた粘膜を修復するのに抜群の効果があるといわれます。また、肝臓に余分な脂肪が沈着して起こる脂肪肝を予防する効果もあります。

キャベツにはさらに、抗酸化作用が高いビタミンC、骨粗鬆症を予防するビタミンKも含まれているので、特に胃腸虚弱の人、風邪をひきやすい人、腰痛、関節痛などで悩んでいる人は毎日の食卓に欠かせない食材といえましょう。キャベツを2~3枚、生で食べれば、ビタミンC一日必要量の50%以上を摂取することができますが、私の友人は毎日キャベツ3枚をサラダにして食べていて、6ヶ月で胃潰瘍を治してしまいました。

キャベツを美味しくたくさん食べる方法。キャベツをせん切りにし、マヨネーズにレモン・ハチミツ・コショウを適量混ぜ合わせたドレッシングであえる。冷蔵庫で一晩ねかせて食べると美味。軟らかく温かい料理がよい人は、キャベツを四つ切にしてそのまま鍋に入れ、人参、玉ねぎ、セロリを加え、スープの素を入れてじっくり煮込んで食べるとよいでしょう。

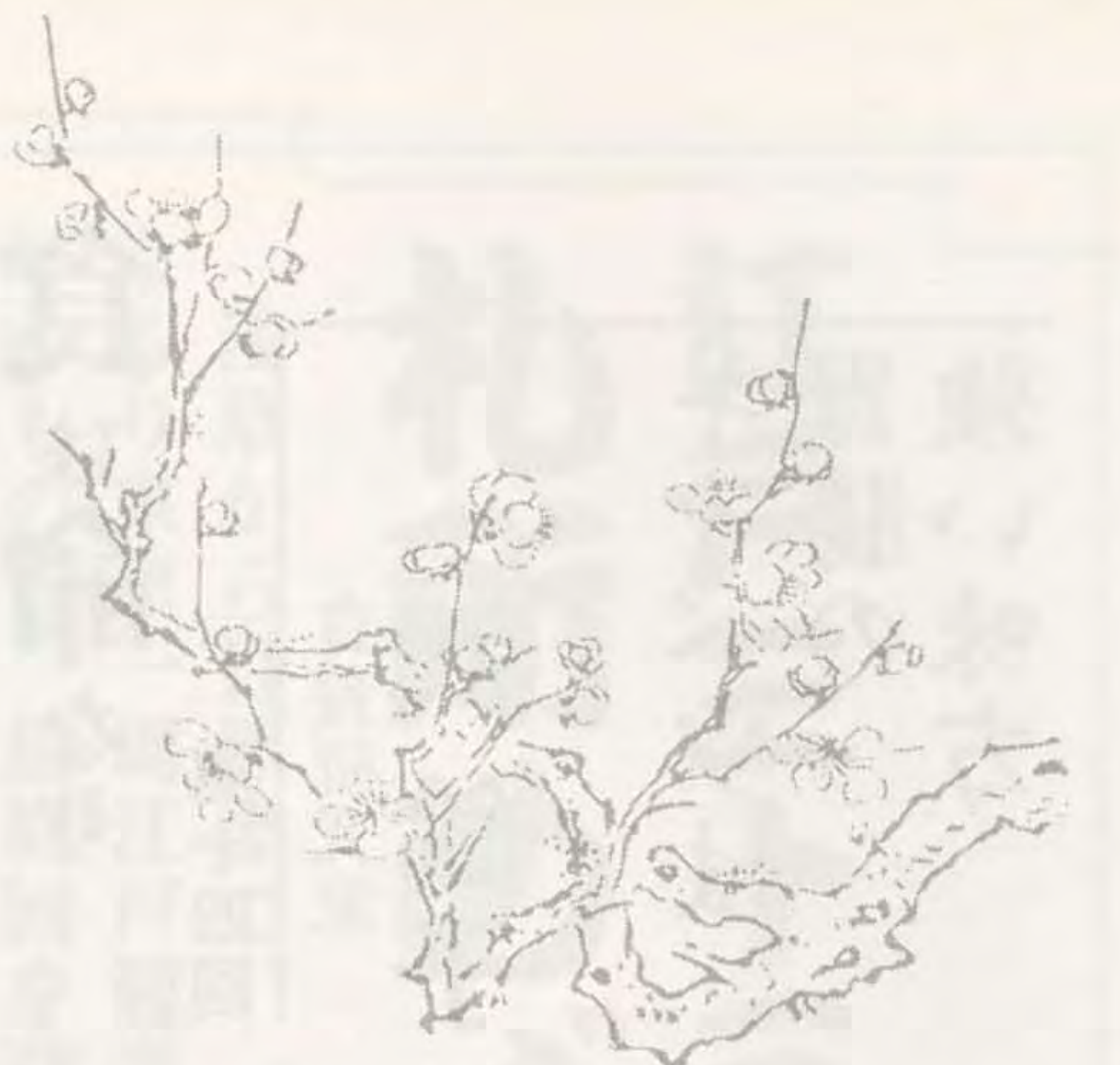
投句募集

今回は「春の季語」で自由にお詠み下さい。3月20日を締切、6月上旬発送の『施餓鬼号』にて発表いたします。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆様の投句お待ちしております。

※港区南青山2-26-38 梅窓院 「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集 青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、左記の番号までご連絡ください。 ※ウエップ編集室 電話〇三(五三六八)一八七〇

・ 行 ・ 事 ・ 予 ・ 定 ・



春彼岸会法要・寄席

三月二十日(土)
午後一時～ 彼岸寄席
午後二時～ 春彼岸会法要
本堂棟二階 本堂にて
※同時開催
本堂莊嚴佛具 写真展
本堂棟一階 観音堂にて



鑿を打つ彫金師の小林さん。今回、作成中の彫金も展示される。

はなまつり

四月三日(土)～八日(木)
梅窓院 本堂前にて
お釈迦様の誕生をお祝いし、花御堂をお造りし、誕生仏をお奉りします。甘茶もご用意しております。皆さまどうぞお参り下さい。



灌仏会・仏生会・浴仏会・釈尊降誕会などとも呼ばれています。

第四回 文化講演会

四月九日(金) 午後七時～
講師 ペマギヤルポ氏
「チベット文化について」
地下二階 祖師堂にて

〔ペマギヤルポ氏 略歴〕

一九五三年、チベットの領主ギヤルポ家に生まれる。五歳で中国の侵略にあい、生活は一変。戦火をくぐり抜けインドへ亡命。

一九六五年、難民生活を経て日本へ留学。ダライ・ラマ法王の初代在日代表となり、チベット文化を日本に広める活動を行なう。

現在は大学教授なども兼任する傍ら、マスコミにも登場し、国際情勢コメンテーターとしても活躍中。

※お申込みは別紙参照下さい。



ペマギヤルポ氏

団体参拝旅行

〓 松本 玄向寺(牡丹寺) 〓
五月十四日(金) 〓十五日(土) 〓
松本城主水野公の菩提寺である玄向寺を参拝します。境内には数百株の牡丹が植えられており、その美しく咲き乱れる風景は壮観です。ぜひこの機会に皆さまお誘い合わせの上ご参加下さい。
※お申込みは別紙参照下さい。
五月には牡丹が咲き誇る。(提供/玄向寺)



第三回 念仏と法話の会

六月十日(木)
本堂棟二階 本堂にて
法話「五台山紀行」
長野教区寛慶寺住職
水科善隆上人

郡上おどり in 青山

六月十九日(土)・二十日(日)
梅窓院 境内にて
※同時開催
郡上八幡物産展
本堂棟一階 観音堂にて

『青山』を一緒に

作って
みませんか?

◆ お知らせ ◆

新コーナー
編集員募集!

お寺大好き
散歩大好き
大歓迎

お仲間を
募集
しています

男女問わず

年齢不問

ひとりでも
家族でも

次回の『青山』18号から、「ぶらり門前膝栗毛」と題したコーナーを企画しています。都内や近郊のお寺とその周辺を散歩する企画です。年齢性別は問いません。1人でも家族でも結構です。私たち編集部員と一緒に歩いて、そして一緒に『青山』を作ってみませんか!!

お問合せ 梅窓院 青山文化村
TEL. 03-3404-8447

編集後記

三十三観音札所巡りも無事終了し、次号からは新企画も予定しております。読者の皆さまと共に『青山』を創り上げていきたいと思っております。お気軽にご意見をお寄せ下さい。
2面でもご紹介しましたが、2月8日に祖師堂で平井丈一朗氏によるチェロコンサートが開催されました。大変多くの方々にお越し頂き、反響の大きさに驚くばかりでした。今後も梅窓院では文化活動に力を入れていく予定です。ぜひお越し下さい。お楽しみに。